

広島県北広島町におけるチゴモズの繁殖生態と生息地の植生

上野 吉雄^{1*}・保井 浩¹・森口 龍人¹・今村 守¹・松田 賢¹・佐久間 智子¹・伊東 進也²

¹ 認定 NPO 法人西中国山地自然史研究会・² 広島市南区堀越

Vegetation and Breeding Ecology of Tiger Shrike *Lanius tigrinus* in Kitahirosimacho Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO*, Hiroshi YASUI, Tatsuto MORIGUCHI, Mamoru IMAMURA, Satoshi MASTUDA,
Tomoko SAKUMA and Shinya ITO

Abstract : Aiming to identify the breeding environment of Tiger Shrike in the Chugoku region, we conducted a survey of the breeding status, Yawatabara Park in Kitahiroshima-cho, Hiroshima Prefecture, from June to August 2021. *Cirsium sieboldii*, *Juncus decipiens*, *Persicaria sagittata* var. *sibirica*, and *Persicaria thunbergii* were dominant in the wet area. *Miscanthus sinensis* and *Artemisia indica* var. *maximowiczii* were dominated in dry glasslands. The nesting site was in a *Quercus serrata* forest. The height of tree layer was around 14 m, and the most dominant tree is a *Q. serrata*. The sub-tree layer and shrub layer were composed of *Acer sieboldianum* and *Aria alnifolia*, and the herb layer was dominated by *Sasa* sp. The nesting tree was *Q. serrata*, with a height of approximately 15 m and a breast height diameter of 20 cm. During the observation period, four chicks left the nest. Insects identified in capture by sweeps at feeding sites were 22 species, including *Dryophytes japonica*, *Lepidopteran larvae*, *Orthoptera* including *Locustidae*, *Katydididae*, and *Gryllidae*, and *Diptera Tabidae*. In order to conserve the breeding area of *Lanius tigrinus* in Kitahiroshima-cho, it is necessary to adaptively manage the Kirigatani Wetlands, as feeding area and the surrounding forests as nesting forests.

はじめに

チゴモズ *Lanius tigrinus* はウスリー、朝鮮半島、中国東北部、日本などで繁殖し、中国南部、スマトラ、フィリピンなどで越冬する。国内では本州中部から東北地方にかけて局所的に渡来し、繁殖するが個体数が減少傾向にあるので環境省により、絶滅危惧 I A 類に選定されている（環境省 2014）。中国地方では、岡山県により、絶滅危惧 I 類に選定されている（岡山県 2020）。

中国地方ではきわめて希に繁殖しており、広島県で 2006 年に繁殖が確認され（渡辺 2007）、岡山県と鳥取県でも繁殖が確認されている（日本鳥学会 2012）。筆者らは 2021 年に広島県北広島町において本種の繁殖を確認した。中国地方におけるチゴモズの繁殖環境についての情報は少なく、本種を保全するうえで重要な資料となるため、報告する。

調査地の概要

チゴモズの繁殖を確認したのは、北広島町の臥竜山麓八幡原公園（34°42'N, 132°11'N）の霧ヶ谷湿原周辺である。地域気象観測所「八幡」での過去 5 年間（2018 年から 2022 年）の年平均降水量は 2,520 mm, 年平均降雪量は 390 cm であり、周辺地域の観測所である「加計」及び「大朝」での過去 5 年間（2018 年から 2022 年）の年平均気温はそれぞれ 13.9℃と 12.4℃である（気象庁ホームページ）。霧ヶ谷湿原及びその周辺の海拔は 800

～830 mであり、冷温帯に位置する。霧ヶ谷湿原は1964年から1986年にかけて牧場として利用され、そのほとんどは人工草地であり、カモガヤ *Dactylis glomerata* などが優占していたと考えられる(吉野 2005)。ここでは草原性鳥類のホオアカなどが繁殖していた。その後、牧場は閉鎖・放置され、人工草地は若いアカマツ *Pinus densiflora* が優占する低木林やカンボク *Viburnum opulus* var. *sargentii* , カラコギカエデ *Acer ginnala* , ズミ *Malus toringo* が優占する低木林、ノイバラ *Rosa multiflora* が優占する草地に遷移し(吉野・白川 2005)、モズ *Lanius bucephalus* やキジ *Phasianus colchicus* などが繁殖していた。そこで、環境省と広島県は、2005年から自然再生事業により、自然生態系の保全・再生のための計画を作成し、湿原環境の再生に向けた取り組みを進めている(図版 1-A)。

現在は、アカショウビン *Halcyon coromanda* , クロツグミ *Turdus cardis* , カラアカハラ *Turdus hortulorum* , ミヤマホオジロ *Emberiza elegans* などが繁殖している(図版 1-A)。その他、近隣の森林でツミ *Accipiter gularis* やクマタカ *Nisaetus nipalensis* が営巣している。

調査方法

1. 繁殖調査

チゴモズの繁殖状況の調査は双眼鏡(8倍)および望遠鏡(20倍)を用いて行い、必要に応じて写真撮影やビデオ撮影を行った。

2. 植生調査

営巣地および周辺環境の植生を調べるために、Braun-Blauquet(1964)による植物社会学的方法にもとづいて、植生調査を行った。営巣地の植生調査は2021年9月23日に、周辺環境の植生調査は2020年6月27日、28日、9月20日、21日に行った。調査は植物相および相観の均一な場所を任意で抽出し、草本群落では1m×1m、森林群落では10m×10mを基本として植生高に応じて適切な面積の方形調査区を設定した。周辺環境の植生調査は、6月に設置した調査区と同じ調査区で9月の調査を行った。周辺環境の植生調査により得られた資料は各植物の最大被度を用い、全層を対象にEllenberg(1956)による表操作を行い、群落区分を行った。種の和名および学名は、山ノ内ほか(2019)に準拠したが、キセルアザミ *Cirsium sieboldii* , イグサ *Juncus decipiens* , ウナギツカミ *Persicaria sagittata* var. *sibirica* は既存調査において、群落名にマアザミ、イ、アキノウナギツカミの和名が使用されていたため、群落名には、既存調査と同様に、マアザミ、イ、アキノウナギツカミの和名を用いた。

3. 昆虫調査

チゴモズの餌内容を推定するため、育雛を終えた後に採餌場所周辺で昆虫類・クモ類を対象とした調査を実施した。昆虫調査は2021年8月11日14:10～15:10に行った。天候はくもり時々晴れ、27℃前後であった。

採餌場所に存在する環境の区分として、湿原(自然再生地)、乾性草地(沿道)、樹林(林縁)を区別し、それぞれを対象に採集した。採集方法はスウィーピング法とし、捕虫網をそれぞれ10回程度振り、持ち帰って同定した。対象はチゴモズの餌となり得るサイズ(1cm程度以上)として、種あるいは属・科レベルまで同定した。幼虫もわかるものは同定した。標本は採集環境ごとに分け、乾燥標本として保管した。標本は芸北高原の自然館に保管している。

結果

1. チゴモズの繁殖状況

1-1. 繁殖経過

①初認

2021年6月10日に臥竜山麓八幡原公園の霧ヶ谷湿原北側の草原内のアカマツにとまるチゴモズのつがいを確

表1 宮巣地の森林群落の組成表

調査年月日	2021年9月23日			
傾斜方位	N10W			
傾斜角度	5°			
調査面積	15m×15m			
階層	高木層	亜高木層	低木層	草本層
高さ (m)	14.0	11.0	5.0	0.6
胸高直径 (cm)	33.2	11.9	7.3	-
植被率 (%)	95	50	20	70
コナラ	4・4	・	・	・
イタヤカエデ (広義)	2・2	・	・	・
ブナ	1・1	1・1	・	・
ミズナラ	1・1	+	・	・
アカマツ	1・1	・	・	+
ホオノキ	+	・	+	・
コハウチワカエデ	・	2・3	1・2	・
アズキナシ	・	2・2	1・2	・
コシアブラ	・	1・1	・	・
ナツツバキ	・	1・1	・	・
ウワミズザクラ	・	・	+・2	+・2
エゾユズリハ	・	・	+・2	+
イヌツゲ	・	・	+	2・2
タンナサワフタギ	・	・	+	+・2
ナナカマド	・	・	+	+
ミヤマガマズミ	・	・	+	+
リョウブ	・	・	+	+
アカシデ	・	・	+	・
オオカメノキ	・	・	+	・
ツノハシバミ	・	・	+	・
ヤマボウシ	・	・	+	・
ササ属の一種	・	・	・	3・3
オトコヨウゾメ	・	・	・	1・2
ツルシキミ	・	・	・	+・2
イワガラミ	・	・	・	+
ウリハダカエデ	・	・	・	+
オオカメノキ	・	・	・	+
コバノガマズミ	・	・	・	+
コバノフユイチゴ	・	・	・	+
サルトリイバラ	・	・	・	+
シシガシラ	・	・	・	+
タチシオデ	・	・	・	+
タチドコロ	・	・	・	+
チゴユリ	・	・	・	+
ハイイヌガヤ	・	・	・	+
ヤマウグイスカグラ	・	・	・	+
ヤマウルシ	・	・	・	+

認した。

②造巢

6月21日にオスによるメスへの求愛給餌を確認し（図版1-B）、メスが造巢していることが推察された。

③抱卵

6月24日に巣に餌を運ぶオスを確認した。6月28日に巣に餌を運ぶオスを確認し、メスが抱卵をしていることが推察された。7月1日に餌を運ぶつがいを確認した（図版1-C・D）。

④ふ化、巣内びなへの給餌

7月3日に巣のビデオ撮影した所、メスが巣内で卵殻を食べており、ひながふ化したようである。チゴモズの抱卵日数は14日～15日とされており（中村1995）、これから15日前の6月19日頃に抱卵を開始したと推察される。7月4日にメスによる抱雛を確認し（図版2-A）、オスが小さいチョウ目幼虫を給餌しているのを確認した。7月12日につがいで給餌するのを確認した。7月15日に巣内でメスが抱雛しており、4羽のひなを確認した。7月16日につがいで給餌するのを確認した。

⑤巣立ち

チゴモズのふ化後の育雛期間は15日とされている（中村1995）。ふ化日と推定した7月3日から16日目にあたる7月18日の7:01にひなが巣立つのを確認した（図版2-B）。この時、巣内にはひなが確認されず、それ以前に3羽のひなが巣だったようである。

⑥巣立ち後の育雛および移動状況

7月19日に巣から南西に約100m離れた地点で4羽の巣立ちびなに給餌するつがいを確認した。巣立ちびなは茂ったカンボクの中に潜むように止まり、そばの目立つ枝先でオスが見張り行動をしていた。7月27日に2羽の巣立ちびなとつがいが霧ヶ谷の南側に移動しているのを確認し、7:30に巣立ちびながハンノキの樹上で就嚙するのを確認した。7月28日に4羽の巣立ちびなとつがいが霧ヶ谷の南側で給餌するのを確認した（図版2-C）。7月29日に2羽の巣立ちびなとつがいを霧ヶ谷の南側で確認した。8月1日に巣立ちびなとつがいを確認した。チゴモズは巣立ち後約1か月で家族生活は解消し、若鳥は独立するとされている（山岸1997）。8月11日にチゴモズの若鳥3羽を霧ヶ谷湿原で確認したが、つがいは確認できず家族群は解消したようである。巣立ち後、25日が経過していた。

1-2. 営巣木と巣

営巣木は樹高約15m、胸高直径20cmのコナラで、イワガラミが巻き付いていた。巣は林縁上に張り出した横枝の端、地上約10mの位置に置かれていた。巣の周囲はコナラやイワガラミの葉が密生しており、外部から見え見えにくく、外敵や風雨から守られていた。

巣は椀型で、巣を採取する際に巣の外装は失われたが、内装はススキの枯れ葉や穂、コケなどで作られていた（図版2-F）。

1-3. 食性

繁殖過程で確認されたひなへの給餌内容はヒメギス *Eobiana engelhardti subtropica*、ニホンアマガエル *Dryophytes japonica*、チョウ目幼虫、ツマグロバッタ *Stethophyma magister* をはじめとしたキリギリス科、バッタ科、チョウ目幼虫などが記録された（2-E）。親鳥の採餌行動や樹上での餌持ちの写真撮影による判定では、これらのほかにトンボ目、カワゲラ目、ハエ目（ウシアブ類）などが記録された。

2. 生息地の環境

2-1. 営巣地の植生

営巣地の森林群落の組成を表1に示す。営巣地は植生高が14mのコナラ群落であり、高木層にコナラ *Quercus serrata* が優占し、亜高木層および低木層にコハウチワカエデ *Acer sieboldianum*、アズキナシ *Aria alnifolia*、コシアブラ *Chengiopanax sciadophylloides*、ウワミズザクラ *Padus grayana* 等が生育していた。草本層

表2 森林群落の組成表. 識別種を除く出現回数1回の種は省略した.

- A. ハンノキ群落
 B. カンボク-カラコギカエデ群落

群落区分		A	B		
最大植生高 (m)	高木層	12.0	8.0	-	-
	低木層	6.0	8.0	1.7	1.6
	草本層	1.0	1.2	1.0	0.5
最大植被率 (%)	高木層	80	85	-	-
	低木層	5	85	70	75
	草本層	95	80	90	100
出現種数		50	43	23	21
ハンノキ		5・5	・	1・1	・
キセルアザミ		5・5	・	・	・
ゴウソ		2・2	・	・	・
アブラガヤ		1・2	・	・	・
ハンカイソウ		1・2	・	・	・
カラコギカエデ		+・2	5・5	1・2	2・2
サトメシダ		・	1・2	3・3	1・1
トモエソウ		・	+・2	1・2	+
ノリウツギ		1・1	・	3・3	4・4
カンボク		1・2	2・2	2・2	・
ノイバラ		1・2	3・2	1・2	1・1
エゾシロネ		1・2	1・2	+	+・2
ウナギツカミ		+・2	1・2	2・2	+
スイカズラ		+・2	+	+・2	+
ミゾソバ		1・2	3・3	2・2	・
イヌツゲ		2・2	1・2	1・2	・
ツリフネソウ		1・2	1・2	1・2	・
ススキ		1・1	・	1・1	1・1
ヤマノイモ		+	1・2	・	1・2
イグサ		1・2	1・2	・	+
ヒヨドリバナ		+	1・2	+	・
ミヤコイバラ		1・2	・	・	2・2
アケボノソウ		1・2	1・2	・	・
コブシ		1・2	1・1	・	・
オタカラコウ		1・2	+	・	・
コバギボウシ		1・2	+	・	・
ヒメシロネ		1・2	・	・	+
タンナトリカブト		+・2	2・2	・	・
イズモアザミ		+	1・2	・	・
ツボスマレ		+・2	+・2	・	・
ツルウメモドキ		+・2	+	・	・
イネ科の一種		+	・	・	+
ノブドウ		+	+	・	・
ハルガヤ		+	・	2・2	5・4
ヨモギ		・	1・2	・	1・2
ゴマナ		・	+	・	+・2
ゲンノショウコ		・	+	・	+

表3 草本群落の常在度表。識別種を除く出現回数3回以下の種は省略した。植生高、植被率、出現種数は平均値を示した。

群落区分	A	B	C	D	E	F	G	H	I
調査地点数	1	7	2	2	8	2	1	3	1
植生高 (m)	0.5	0.6	1.5	0.8	0.9	1.0	1.5	1.0	1.3
植被率 (%)	60.0	87.7	97.5	83.8	98.4	97.5	95.0	98.0	100.0
出現種数	8	14	15	20	16	10	6	27	12
フトヒルムシロ	1 5	・	・	・	・	・	・	・	・
キセルアザミ (マアザミ)	1 2	V 3-5	・	1 2	・	・	・	・	・
クサレダマ	・	V 1	・	・	III 1-2	・	・	1 4	・
ヒメシロネ	・	V +-2	2 1-2	・	IV +-5	・	・	1 1	1 +
アブラガヤ	・	V 1-3	・	1 1	IV 1-3	・	・	3 1	・
チゴザサ	1 1	IV 1-2	・	・	II 1-4	・	・	・	・
ゴウソ	・	IV 1	・	1 1	III 2-3	1 1	・	3 1	・
アケボノソウ	・	III +-1	・	・	II +-1	・	・	3 1	・
ハンノキ	1 1	III 1-3	・	・	I 2	1 1	・	2 1	・
オニスゲ	1 3	II 1-4	・	・	II 2-4	・	・	・	・
オタカラコウ	・	・	2 4-5	・	I 3	・	・	・	・
ゴマナ	・	I +-1	2 1	1 2	I 1	・	・	・	・
フランスギク	・	・	・	2 1-2	・	・	・	・	・
ミヤコグサ	・	・	・	2 +-3	・	・	・	1 +	・
ヘラオオバコ	・	・	・	1 1	・	・	・	・	・
イグサ	・	II 1	1 1	・	V 1-5	・	・	3 1-2	・
エゾシロネ	・	III +-1	・	1 1	V +-1	・	・	3 1	・
ホソバノヨツバムグラ	・	II +	1 +	1 +	IV +-1	1 1	・	1 +	・
アカバナ	・	・	1 +	1 1	II +-1	・	・	1 +	・
アオコウガイゼキショウ	・	I 3	・	・	II 1	・	・	・	・
ハルガヤ	・	I 1	・	2 2-4	II 1	・	・	3 1	・
ヒメゴウソ	・	II 1	・	・	II 1	・	・	2 1	・
ツボスミレ	・	II +	・	1 +	II +-1	1 1	・	1 1	・
サワオトギリ	・	・	1 +	・	I +	・	・	3 +	・
ミゾソバ	1 1	II 1-2	2 2	・	IV 1-5	2 5	・	1 1	1 1
ウナギツカミ (アキノウナギツカミ)	・	I +-1	2 1	1 +	V +-2	2 1-2	1 1	1 1	・
オギ	・	・	・	・	・	・	1 5	・	・
ススキ	・	III 1-3	・	2 1-3	II +	・	・	3 3-5	・
スイカズラ	・	I 1	・	・	I 2	1 1	・	3 +-2	・
ミツバツチグリ	・	III +-1	・	1 1	I 1	・	・	3 +-2	・
オトギリソウ	・	・	・	・	・	・	・	3 1	・
サワヒヨドリ	・	III +-1	・	1 1	II +-1	・	・	2 1	・
ヨモギ	・	・	・	2 2-3	II +-1	1 3	・	3 +-1	1 5
ナガハグサ	・	・	2 1	・	I 1	・	・	・	1 5
アリノトウグサ	・	III +-1	・	・	I +	・	・	1 +	・
ビッチュウフウロ	・	I 1-2	2 1-2	・	・	・	・	・	1 1
ノイバラ	・	I 1-2	2 1-2	1 1	IV 1-2	2 1-3	1 4	3 1-2	1 1
ツリフネソウ	・	I +-1	2 +-2	1 1	II +-2	2 1	1 1	2 +	・
アメリカセンダングサ	・	I +	2 +-1	1 1	II +-1	・	・	1 +	・
カラコギカエデ	・	I 1	1 1	1 +	II +-1	1 1	・	2 +-1	1 1
イヌツゲ	・	I +	・	・	・	1 +	・	2 1	・
スギナ	・	I 1	・	1 2	・	・	1 1	1 +	・
ミヤコイバラ	1 +	I 1	・	・	II 1	・	・	・	・
トモエソウ	・	・	・	1 1	II 1-3	・	・	1 +	・
サトメシダ	・	・	・	・	II 1	・	・	1 2	・

はササ属の一種 *Sasa sp.* が優占し、オトコヨウゾメ *Viburnum phlebotrichum*, ツルシキミ *Skimmia japonica var. intermedia f. repens*, イワガラミ *Schizophragma hydrangeoides*, ウリハダカエデ *Acer rufinerve* 等が生育していた。

2-2. 周辺の植生

営巣地の正面に広がる霧ヶ谷湿原は、湿性草原と乾性草原が広くモザイク状に分布し、ハンノキ *Alnus japonica* が優占する高木林とカラコギカエデ、ノリウツギ *Hydrangea paniculata*, カンボク等が優占する亜高木林や低木林が点在する。

森林群落の組成表を表2に、草本群落の常在度表を表3に示す。現地調査により得られた植生調査資料を表操作により群落区分した結果、森林群落は、ハンノキ群落とカンボク-カラコギカエデ群落に区分され、草本群落

表4 チゴモズの営巣場所及び採餌場所周辺で確認された昆虫類・クモ類 (2021年8月11日)

目	科	種	確認状況 (個体数と確認環境)
クモ	ヤチグモ	ヤチグモ科の一種	Coelotidae sp. 1ex. 湿原
	コモリグモ	コモリグモ科の一種	Lycosidae sp. 1ex. 湿原
	アシナガグモ	アシナガグモ	<i>Tetragnatha praedonia</i> 1ex. 湿原
	コガネグモ	ナカムラオニグモ	<i>Larinioides cornutus</i> 1♀ 乾性草地
		ナガコガネグモ	<i>Argiope bruennichii</i> 2exs. 乾性草地
	カニグモ	ワカバグモ	<i>Oxytate striatipes</i> 2exs. 乾性草地, 湿原
カマキリ	カマキリ	コカマキリ	<i>Statilia maculata</i> 1ex. (幼虫) 乾性草地
バッタ	キリギリス	オナガササキリ	<i>Conocephalus gladius</i> 4exs. (幼虫) 乾性草地
		ホシササキリ	<i>Conocephalus maculatus</i> 1♀1ex. (幼虫) 乾性草地
	ツユムシ	ツユムシ	<i>Phaneroptera falcata</i> 1♀ 湿原
	マツムシ	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i> 1♂4exs. (幼虫) 湿原
	オンブバッタ	オンブバッタ	<i>Atractomorpha lata</i> 1ex. (幼虫) 湿原
	バッタ	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma setouchiensis</i> 1♂ 湿原
		ツチイナゴ	<i>Patanga japonica</i> 2exs. (幼虫) 乾性草地
		コバネイナゴ	<i>Oxya yezoensis</i> 1♂1♀5exs. 湿原
		ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i> 1♂ 乾性草地
	ナナフシ	ナナフシ	ニホントビナナフシ
アミメカゲロウ	クサカゲロウ	クサカゲロウ科の一種	Chrythropidae sp. 1ex. 乾性草地
コウチュウ	カミキリムシ	ゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora malasiaca</i> 1♂ 湿原
	ハムシ	ヨモギハムシ	<i>Chrysolina aurichalcea</i> 1ex. 湿原
	ゾウムシ	ナガカツオゾウムシ	<i>Lixius depressipennis</i> 3exs. 乾性草地
チョウ	アゲハモドキガ	キンモンガ	<i>Psychostrophia melanargia</i> 1ex. 林縁

注) 採集はスウィーピング法により行い, 対象環境 (霧ヶ谷湿原内, 沿道の乾性草地, 林縁部) ごとに10振り程度実施。

は, フトヒルムシロ群落, マアザミークサレダマ群落, オタカラコウ群落, フランスギク群落, イーエゾシロネ群落, ミゾソバーアキノウナギツカミ群落, オギ群落, ススキーサワヒヨドリ群落, ヨモギ群落に区分された。湿性草原であるマアザミークサレダマ群落, イーエゾシロネ群落, ミゾソバーアキノウナギツカミ群落では, キセルアザミ, アブラガヤ *Scirpus wichurae* f. *concolor*, イグサ, ミゾソバ *Persicaria thunbergii* などが優占し, 乾性草原であるススキーサワヒヨドリ群落やヨモギ群落ではススキ *Miscanthus sinensis* やヨモギ *Artemisia indica* var. *maximowiczii* が優占していた。

2-3. 昆虫調査結果

チゴモズの営巣場所および採餌場所周辺で採集された昆虫類・クモ類について表4に示す。クモ目やバッタ目 が得られ, これらは餌資源量として利用されていると考えられる。特にバッタ目は種数, および幼虫を含めた個体数が多い, 主要な餌内容となっている可能性がある。

考察

新潟県におけるチゴモズの繁殖場所として採餌場所となる農耕地や草地などに隣接する林が選ばれ, 里山やゴルフ場, 扇状地が多く, 一面の森林地帯は選ばれなかったという (立石ほか 2021)。本調査地も採餌場所となる開けた霧ヶ谷湿原とそれに隣接した林が営巣場所として利用されていた。また, 新潟県における営巣林選択では, 広葉樹の平均胸高直径が大きく, 広葉樹の本数が多く, 低木層の葉層密度が高く, 葉群相が多様で, 樹木の種が多様である林相が好まれていたという ((立石ほか 2021)。本調査地の営巣林もコナラを優占種とし, 広葉樹の種が多様

であった。

本調査の結果、北広島町におけるチゴモズの繁殖環境が明らかとなり、チゴモズの繁殖地を保全する上で、採餌場所となる霧ヶ谷湿原の管理が重要であることが明らかになった。

摘要

1. 2021年6月から8月にかけて広島県北広島町北広島町の臥竜山麓八幡原公園の霧ヶ谷湿原周辺においてチゴモズの繁殖環境について調査した。
2. 採餌場所としての霧ヶ谷湿原内の湿性草原ではキセルアザミ、アブラガヤ、イグサ、ミゾソバなどが優占し、乾性草原ではススキやヨモギが優占していた。
3. 営巣場所は植生高が14 mのコナラ群落であり、高木層にコナラが優占し、亜高木層及び低木層にコハウチワカエデ、アズキナシ等が生育し、草本層はササ属の一種が優占していた。
4. 営巣木は樹高約15 m、胸高直径20 cmのコナラであり、4羽のひなが巣立った。
5. 繁殖過程で確認できた食物はニホンアマガエル、鱗翅目幼虫、バッタ科、キリギリス科、コオロギ科などの直翅目、双翅目のアブ科などである。
6. 北広島町におけるチゴモズの繁殖地を保全する上で、採餌場所となる霧ヶ谷湿原と営巣林となる周辺の森林の順応的な管理が必要である。

謝辞

本論文を作成するにあたり、給餌内容の情報をいただいた河野 けい子氏、巣立ちの情報をいただいた麻生 貞之氏と斎藤 裕子氏、高所の巣を採取していただいた森戸 隆男氏を始めとする日本山岳会広島県支部の方々、英文Abstractを作成していただいた芸北 高原の自然館の白川 勝信主任学芸員のみなさまに心からお礼を申し上げます。

引用文献

- Braun-Blanquet J (1964) Pflanzensoziologie: Grundzüge der Vegetationskunde, 3rd edition. Springer-Verlag, Berlin
- Ellenberg H (1956) Aufgaben und Methoden der Vegetationskunde. In: Grundlagen der Vegetationsgliederung (ed. Walter, H.) . Eugen Ulmer, Stuttgart
- 環境省 (2014) チゴモズ. レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 2 鳥類, ぎょうせい, 東京
- 気象庁: <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/coment.html>
- 中村 雅彦 (1995) チゴモズ. 原色日本野鳥生態図鑑 <陸鳥編> 137 保育社, 大阪
- 日本鳥学会 (2012) 日本鳥類目録 改訂第7版. 日本鳥学会, 三田
- 立石 幸輝・鎌田 泰斗・高岡 泰多・富田 健斗・関島 恒夫 (2021) 新潟県に生息するチゴモズの繁殖場所規定要因 解明. 日本鳥学会 2021 年度大会講演要旨集
- 岡山県 (2020) チゴモズ. 岡山県版レッドデータブック 2020 -絶滅のおそれのある野生生物-. 岡山県環境文化部自然環境課
- 渡辺 健三・渡辺 貴美恵 (2007) 広島県内におけるチゴモズの繁殖記録. Strix. 日本野鳥の会
- 山岸 哲 (1997) チゴモズ. 日本動物大百科 鳥類II. 88, 平凡社 東京
- 山ノ内 崇志・首藤 光太郎・大澤 剛士・米倉 浩司・加藤 将・志賀 隆 (2019) 維管束植物和名チェックリスト ver.1.10 (https://gbif.jp/activities/checklist/wamei_checklist_110)
- 吉野 由紀夫・白川 勝信 (2005) 広島県臥竜山麓の放牧跡地に発達した植生. 高原の自然史, 10・11: 1-21

図版 1



A: 繁殖環境 2021年7月4日
B: 求愛給餌 2021年6月21日
C: オス 2021年7月1日
D: メス 2021年7月1日



A : 抱卵 2021 年 7 月 4 日
B : 巣立ちびな 2021 年 7 月 18 日
C : 巣立ちびなへの給餌 2021 年 7 月 28 日
D : 巣立ちびな 2021 年 8 月 23 日
E : ツマグロバッタを捕らえたオス 2021 年 6 月 27 日
F : 巣 (内巢) 2021 年 8 月 8 日